

## 恋文

泣きながらペンを取り、あなたにお手紙を書いていきます。

どうしてこんなに長いこと、お手紙を書いてくれないのですか。私が書かないときは僕が書くよと先日、書いて下さったのに。父からきのう手紙が来ました。あなたに手紙を出したと書いてありました。でもあなたは、父から手紙をもらったと一言も書いていらっしやいませんでしたわね。

もし、父から手紙をもらったと一言、書いて下さってたなら、私は父に、あなたはすぐにお返事を書きたかったのだけれど、残念ながら書く時間がなかったのだ、そうでなければ書いていたところだと、書いてやることができましたのに。

私たちの手紙のやりとりはさびしいですわね。だってあなたは私の書いた手紙にお返事を書いて下さらないんですもの。

もしあなたがお書きになれないのであれば、話はまったく別です。それなら私もあなたにお手紙など書かないでしょう。でもあなたは書けるんです。それなのに、私が書いても、書いて下さらないんです。

もうペンを置きましょう。あなたがいに、きつとお手紙を書いて下さることを祈りつつ。さもなければ、これが私があなたへ書く最後の手紙となるでしょう。でも、今度もまた書けないようでしたら、少なくとも書く気がまったくないということだけでも、書いて下さい。そうすれば、どうしてあなたが手紙を書いて下さらないのか、その訳だけでもわかりますから。

乱筆ご免なさい。書こうとすると手がけいれんするのです。あなたはけいれんして書かないから、もちろん手もけいれんしませんわね。

かしこ

一九二五年と二分の一年一月三三日

\*子より

愛するあなたへ